

- 変化が激しい環境に対応しながら、限られた行政運営資源をマネジメントしていくため、戦略づくりの視座を有する有識者と、市長、両副市長、理事及び関係部局長出席のもと、有識者懇談会を開催。
- 有識者懇談会は組織化せず、慶應義塾大学の井手教授を中心として、各回のテーマに応じた有識者を招いて開催。

- 有識者懇談会は全5回開催

第1回 6月 テーマ:行財政全般(※部局長研修の一環として開催)

第2回 7月 テーマ:高齢者

第3回 8月 テーマ:地域経済

第4回 9月 テーマ:子ども・子育て

第5回 12月 テーマ:前4回のふりかえり

# 共創のアプローチと有識者懇談会による戦略策定

## 有識者懇談会

### 参加者

学識経験者、民間事業者、市長、両副市長、部局長等



- 「高齢者」「地域経済」「子ども・子育て」といったテーマでの懇談会を開催。
- 毎回、全国で活躍する有識者を招へいし、市長、両副市長及び関係部局長出席のもと、テーマに関する本質的な議論を行う。

## 共創のアプローチ

### 参加者

市民、市民団体、行政（関係課担当者）等



- 市民や行政などのステークホルダーが、具体的な事象を対話と体験（インタビューやセッション等）を通じて理解し、ありたい姿を共有
- 上記を通じて、課題解決策の仮説を生み出して実験し、学びを深め、そこから得られた学びと気づきを計画策定に連動

### 見えてきた気づき・課題

- 分断（縦割り行政など）をつなぐ
- これまでの取り組みの進化
- 民との連携（官民連携）
- アクション生成 等

後期基本計画の柱(戦略)

# 第1回有識者懇談会

**日にち:**平成27年6月2日(火)

**テーマ:**行財政全般

**参加部局:**全部局

**有識者:**井手 英策 氏(慶應義塾大学経済学部教授)

坂本 誠 氏(NPO法人ローカル・グランドデザイン理事)



## 主な意見・議論のポイント

- 後期基本計画では、小田原で生活することのライフスタイルモデルを示す。
- 個人が認められる「場づくり」としての地域づくりを進める。
- ある目標を実現するために、「どの部局とどの部局が、どのように連携するか」を総合計画で示していく。
- 人口維持拡大で目指そうとする社会像を、現実的なアプローチからどのように描いていくかが重要となる。

## 第2回有識者懇談会

**日にち:**平成27年7月13日(月)

**テーマ:**高齢者

**参加部局:**企画部、福祉健康部

**有識者:**井手 英策 氏(慶應義塾大学経済学部教授)

中島 康晴 氏(NPO法人地域の絆 代表理事)

伊藤 英樹 氏(宅老所 井戸端げんき代表)



### 主な意見・議論のポイント

- 地域住民が自主的に、あるいは強制的に地域の中にある活動に参加し、その状況の中で色々な気づきや学びの機会を得て、それによって地域住民の認識が変わり行動が変わってくる。
- 行政は、出会いの場、お互いが知り合う場をどうやって作っていくのか。福祉の問題だけでなく、公共部門、つまり「公」はどうやって「共」を作っていくのか。
- ネットワークをどう作っていくか。そのために行政が何をすればよいのか。
- 現在の結論としては「人を育てる」という事に尽きる。システムで何とかするというよりも、社会に対してアクションできる人間、ソーシャルワークができる人間を増やしていくこと。福祉や介護だけの話ではなく、「社会を変えたい」という想いをもっている人を育てることが大事。

## 第3回有識者懇談会

**日にち:**平成27年8月11日(火)

**テーマ:**地域経済

**参加部局:**企画部、環境部、経済部

**有識者:**井手 英策 氏(慶應義塾大学経済学部教授)  
井筒 耕平 氏(村楽エナジー株式会社代表取締役)  
伊藤 暁 氏(伊藤 暁建築設計事務所)



### 主な意見・議論のポイント

- 西栗倉村の行政の役割としては、「民間の舞台づくり」である。西栗倉村では「平等にすることがミッションではなく、事業の成功がミッション」である。
- 「その場所、時間、与件ならでの合理性」が発見されるべき。東京、西栗倉村、小田原市のそれぞれで、「これが一番理に適っている。」という事があるはずである。
- 「垣根を超える」ということがキーワードになっている。人々が主体的に作り出していくものを、行政がどうやってバックアップするかということに時代が変わりつつある。
- 単に人と人が出会うだけでなく、出来事をどう作っていくかという事であり、同時にコミュニティが持つネガティブな部分もひっくるめて、人間が出会う場をどう作っていくかだと思う。
- 「小田原は市ではなく、国である」というイメージを持たなければならない。



## 第4回有識者懇談会

**日にち:**平成27年9月28日(月)

**テーマ:**子ども・子育て

**参加部局:**企画部、福祉健康部、子ども青少年部、  
教育部(教育長、部長)

**有識者:**井手 英策 氏(慶應義塾大学経済学部教授)  
大島 明子氏(社会福祉法人アルペン会 あしたねの森)



### 主な意見・議論のポイント

- 日常生活の中で世代交流が行われている環境が、あしたねの森にはある。
- 市役所は同じ人間を対象とするはずなのに、課を分断することで動きづらくなっているのではないか。
- 今の子どもたちが10年後、20年後の地域を支えていく。今の観点で子どもたちへの資源の投入について考えていっていただきたい。
- 「人間の垣根をどう無くしていくか」。「小田原であれば、どういった線の無くし方があるのか。」という事を考えなければならない。
- もともとケアタウン構想のイメージは垣根が無い状態、地域の中で既存の諸機能が担い合っている状態を目指している。
- 少しの知恵で、みんなの顔が変わっていく。制度など、難しいことではなく、現場現場でどうやったら誰が喜ぶのか、どうやったら気持ち動くのかを、もっと考えたい。

## 第5回有識者懇談会

日にち:平成27年12月22日(火)

テーマ :前4回のふりかえり

有識者:井手 英策 氏(慶應義塾大学経済学部教授)



### 主な意見・議論のポイント

- 「知る」という部分を徹底的に強化しなければいけない。
- 現在、市域の中で「共」がたくさん生まれている。このパワーを、どうやって同じ方向に向かって、無駄なくやっていけるか。
- 「人間」のニーズは、誰もが必要とするものである。そういう視点をどう入れていくか。
- 子どもたちに、人生の選択肢を与えるような教育の場を提供したい。小田原への愛着は、そういう所から生まれていく。
- 目指すべき公共の姿について、「行政はどこの部分を、市民はどこの部分を、事業者はどこの部分を担うのか」、「それは税金で行うのか、ボランティア活動で行うのか」といった役割分担の設計図を計画に描いていかなければいけない。その全体像を基礎自治体のモデルとして後期基本計画で示していくということがミッションである。

- 「誰が何を負っていくのかの位置づけを正面から考えましょう」ということを、今回はちゃんと入れたい。
- 今回の基本理念で謳っているようなことを象徴するような場をつくり、それをまちに残していく事は出来る。既存の事業の、中身のリニューアルで果たしていける部分もあるが、ポイントとなる先駆的な事業をいくつか置いていかなければならない。
- あとは繋ぐだけであるというイメージである。そのようなものは、やはり柱に据えてよいのではないか。「出会いの場をつくる」ということである。
- 行政の役割は、「サポート役に徹する」ということである。主体的・能動的な人を出会わせ、そのような芽を次々に育んでいく。主体的な活動をバックアップしていく。